

## 『社会変革の枠組み』

講師：加部隆史氏

日時：2005年7月15日（金）19:00-21:30

場所：名古屋伏見NPOセンター集会室

参加者：（現役生）大藪、岡野、番、松井、百田、森、（OB）岸本、近藤、真保、津田、宮田（記）

内容：

### 1. 今の社会状況は？ そして自分は？

一新塾代表理事の青山氏、片岡氏の世代は学生運動の世代。

当時は学生が問題意識持ち、それなりに考えて運動をしていた。

加部氏も少し年は下になるが、高校のときに関わっていたとのこと。

現在は、安全をテーマにNPO立ち上げにも関わり、世界初のロボットの安全認証も、今度万博で行う。

現状認識として500-600年前の信長、秀吉の時代と同様に混沌としており、パラダイムの転換期である。

日本は観客民主主義、最も成功した社会主義国家のモデルであり、中曽根元総理などが口にした、90%が中産階級であるという認識は、まさにマルクスらが唱え、共産主義で実現しようとしたユートピアである。ただし、戦後の構造は、高度経済成長の成功のもと国家と大企業が利権を握る構造が正当化され、一方、それに依存し、何も考えない、あるいは何も行動しない、自分たちで国づくりを行う意欲を失った市民がうまれてしまった。

しかしここに来て、今まで依存していた市民が、1200兆円の赤字、80兆円の年間の歳出のうち税収は45兆円であるという事実。

三菱自動車、東京電力、三井物産、JR西日本、ダイエー、西武などの不祥事など。今までの社会の中核で皆のよりどころであった仕組みに歪みが生じている事を示している。

日本は豊かになったというが、実際物価は高い、高速道路はドイツなら無料、歯の治療は1万円。日本とは比較にならない。交通の設計などインフラに関しても計算されていない。

中国でさえ、考えたインフラ整備を行っている。

団塊の世代は合理化で首を切られる。経済と人権のトレードオフ（cf.アスベスト）。

これで本当に豊かなのか。そうは思わない。

日本は猿真似である。というのも宗教、国家の枠組み、法律、科学、といった原理原則を扱ったものを日本は考えだしていない。聖徳太子の17条憲法から「和魂漢才」→「和魂洋才」できている。

これら日本社会、あるいは産業のベースとなっているところはすべて外国から導入している。

ここから言えるのは、日本人は原理原則を考えださない人間であるということ。

そのような背景から、目に見えるものから見えないものにシフトしている経済の中で、日本は80年代以降どうしていいか分からない状態になっている。つまり、原理原則である哲学的思考→科学的思考がないため、当然実証による技術、製品化による産業も基本的には欧米でうまくいった成功事例を導入し、より良くやっていく事しかできない。

情報公開制度、サッチャー革命など今日の日本は、20年から30年前の欧米の事例を導入しているのが現状。

EUなどは住民の意見が統括される局までできている。

2025年の日本は4分の1が65歳以上、55歳以上の労働者が半分を占めるという少子高齢化。いままでの形態は通用しない。中国の勢いとと比較。

産業においてもこれからの基幹産業ナノテク、バイオでは世界のトップランナーにはなれない。

### 2. 名古屋組のコンセプト図 Social Innovation の説明

図の説明として、まず思想的背景としての指導理念、それに基づいた理想とする社会、そしてその社会を実現していくための行政の役割、そして今までは日本に無かった市民 (= tax payer) の役割。そしてそれを市民の満足度 (= outcome) から判断するという視点と物差し。

欧米では当たり前の、コンセプト、原理原則から戦略をたて、実現するという演繹の手法を用いた、真の意味での公約 (= manifesto)。

明らかに財政破綻。生まれた子供は 500 万円の借金を背負っている。  
本当のあるべき姿の全体像を考える、あるいは行動するベースとしての Social Innovation。

参加の方法は理念 (考え方に賛同)、趣味 (気まぐれで参加)、事業 (責任もって実行)。

詳細は、一新塾名古屋勉強会サイト参照 ([www.csc81.com/nagoya.html](http://www.csc81.com/nagoya.html))

### 3. 納税者プロジェクトの背景と活動内容

近藤裕己氏(9期)の説明

納税者プロジェクトは、税金を解体してみるにより、社会を横から眺め、殆どの現象を包括できる。一新塾の現役生と OBOG を時間軸、及び地域軸で結び、一気に活動できる最適のプロジェクトとして、一新塾理事プロジェクトとなっている。

本質は、どうやったら市民の意見が反映される税の仕組みを作れるか。

出発点と背景 税金は難しい、しかし使い方がおかしい⇒Easy Guide を作ろう！

納税者憲章

G8 のなかでロシアと日本だけ無い

(G8 のなかで原発、高速増殖炉推進はロシアと日本だけ)

アウトカム指標

市民の眼からみて住民満足度を達成する指標

市民が決める税金の使い道

主な活動内容 調査活動

愛知県内の市は全部調べた

勉強会

始めたが、すこし難しい

出版

企画書段階

教育

あとで

市民税調

あとで

選挙率アップ

結果として

論文

作成済み、発表待ち

シミュレーター

構想段階

以下予算書調査に協力する事となったメンバー

百田さん (東海市)、大藪さん (扶桑町)、岡野さん (安城市)、津田さん (小牧市)、番さん (岐阜市)、真保さん (刈谷市)。

### 4. 質疑応答

法律は議員でなく役所が決める、これで本当に三権分立か。  
官のビジネスの 90% は談合。警察の資金は裏金。

きりが無い。

これらをブレークスルーする成功モデルが重要。

成功例には誰も否定しない。